西三川砂金山稼方繪圖

西三川（にしみかわ）は新潟県沖の日本海に浮かぶ佐渡島の地名です。江戸時代、佐渡島の鉱山からは、大量の金が採掘、採取され幕府の財政を支えました。

『西三川砂金山稼方繪圖（にしみかわ さきんやま かせぎかた えず）』には、18 世紀頃の佐渡・西三川金山における金の採掘、採取から精錬、貨幣鋳造までの過程が巻物に描かれています。また、『西三川砂金山稼方繪圖』と類似した内容を持つ巻物は他にも存在します。これらの巻物は、金採掘に関わる複雑な工程を、赴任した幕府の役人に説明する目的を持って作成されました。そして、任を終えた役人が赴任の記念品として持ち帰ったことにより、巻物が各地に拡散したようです。当館の『西三川砂金山稼方繪圖』もそのような巻物の一つと考えられます。

絵図は、砂金を採取する場面と坑道で採掘する場面、そして精錬から小判ができるまでの場面の三部からなります。これらのうち、小判が造られる工程では、金の延べ板が作られ、これをハサミで切り出し、天秤棒により決まった重さに揃えられています。その後、画像のように金づちで叩くなどして、小判型に整えられ、仕上げられています。

小判が造られる工程の絵図では金の黄金色がまぶしく描かれていますが、坑道で採掘する場面では狭い坑道での作業の様子が描かれています。ここからは、過酷な環境で働く人たちの様子がうかがえます。こうした鉱山で働き、江戸時代の日本経済を支えた人々の苦労に敬意を表したいと思います。

【参考文献】

「黄金の国々-甲斐の金山と越後・佐渡の金銀山-」展実行委員会ほか編刊『黄金の国々 ： 甲斐の金山と越後・佐渡の金銀山』2012 年

（2016 年 4 月 15 日公開）